

第8回

東大和市社会教育委員会議 会議録

令和6年12月17日（火）

令和6年度第8回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和6年12月17日（火）午前10時～12時
- 2 場 所： 第6会議室
- 3 出席委員： 池田陽子、外池武嗣、才郷正次、杉本誠一、鈴木進也（5人）
欠席委員： 森脇千春、橋本智保子、半田道夫、和田孝（4人）
- 4 事務局： 岩野生涯学習課長、小泉生涯学習係長、荻沢主事、岩淵主事（4人）
- 5 内 容： 議題（1）研究テーマの検討
議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 1人
- 8 配布資料： 資料 令和6から7年度提言研究の主題設定に向けて
社会連会報／とうきょうの地域教育

9 議事内容

(1) 研究テーマの検討

研究テーマについて以下のとおり議論した。

①若者たちの受け皿

・委員

最近、静かになっている団体が多い。

・委員

おそらく、若い人が入らない悩みも多いと思われる。

・委員

コロナで3年4年止まったブランクは大きい。

・委員

若い人たちはどう積極的に入ってくれるようになるか、また、メンバーが積極的に入ってくれる団体とはどのような団体か聞いてみたい。

・委員

そもそも、若者たちの受け皿が見当たらない。仮に見つかったとしても、高齢化が進んでいて、受け入れ態勢ができていない。決まった曜日時間に若い方が合わないっていうのもあるかと思う。そういう意味で、若者の希望と応じる団体とのギャップは大きいと思う。また、現状PRの仕方が少ない。

②自治会

・委員

高齢化が進んでしまっている自治会は、だんだん縮小傾向にある。新しく引っ越してきた方も入ってくれないため、若い人たちにどう魅力を伝えるか、また、そもそも自治体のあり方を変える等する必要がある。

・委員

私の住む地域も自治会がなくなってしまった。

・委員

私の住む地域の自治会は、今防犯に努めている。怪しげな人たちを地域の目で防ぐため、防犯カメラの補助等をしている。

・委員

自治会の良さは、地域活動ができるところ。私の住む地域の自治会は、皆さん加入している。自治会の防犯っていう部分は、ラインで情報を共有して、警戒して出ないようにしている。

③火事等小さな災害

- ・委員

防災・防犯に関する中間団体は、把握している限りない。自治会の規模が縮小している中、自治会に防災・防犯に関する新しい何かをしてもらうことも難しい。例えば、自治体に加入していない人も情報がいきわたるよう、防災・防犯に関する連絡網等のネットワークの作成が必要なのではないか。大規模な災害は、中間団体には手に負えないため、火事等小規模の災害を提言にするのはどうか。

- ・委員

防犯防災だけに限らず、そのネットワークがうまく作れてうまく運用していければ1人暮らしのご高齢の方の問題や、孤独死等に対しても活用できるのではないかと思う。

- ・事務局

新しい団体に向けての提言、もしくはその両方並立するような提言。いろいろと今方向性が見えてきたと思う。ここで出てきた議論に関しての論点を整理し、次回協議を行いたい。

(2) その他

事務局から1点事務連絡を行った。

- ・事務局

令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議交流大会社会教育委員研究会について報告した。

- ・委員

研究会の中で、町田市では、地域活動サポートオフィスというコーディネーターをとりまとめる団体があるとのこと。東大和市でもこのような団体ができるといいと思った。

- ・副議長

本日の会議のまとめを行った。

- ・議長

第8回東大和市社会教育委員会議を終了する。次回は1月21日午前10時から市役所会議棟第6会議室で開催である。